

## 1. 活動報告（事務局 記）

- 2月27日（火）宇部市地球温暖化対策ネットワーク幹事会 田村副会長出席
- 2月28日（水）椎茸原木 裁断 36本製作 吉富匡会員  
餅つき準備（餡他材料購入、ヨモギ摘み取り）原田マ
- 3月3日（土）たんぼの二度目掘越し作業 原田宗会員により実施
- 3月4日（日）20名の参加で楽しく活動ができました。
  - （1）修復活動：イ）ハス田への取水溝漏れのモルタル打ち込み修復済み  
ロ）池からたんぼの昇降階段修復済み  
ハ）池と止水池の貫通管詰まり、新作済み
  - （2）宇部ネイチャーゲームの会との協働活動
    - イ）直裁 カブトムシ小屋の蔓梅もどき雌株植え付け
    - ロ）湿地帯他サギ草の植栽

活動終了後参加者合計40名にて草餅つき体験をして、きな粉餅、餡餅を食しました。

- 3月5日（月）自然再生の会主催「魚のすみやすい川作り勉強会」  
下関市豊北町にて、関根、吉富匡、原田マ会員と山大生1名合計4名で参加しました。
- 3月17日（土）18名の参加、ハス田散策道のシガラ補修、駐車場の土撒布及び椎茸菌打ち込みを行ないました。製作した杭はシガラ用に使用しました。正月以降修復作業に携わったお陰をもちまして里山がきれいになり、更に心地よい散策が出来るようになりました。
- 3月19日、23日トイレ製作中 原田マ、会員外地区応援者2名

## 2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
  - 見学者案内依頼 6月2日または9日 子どもエコクラブ 案内要
- ◎ 行事
  - 3月27日（火）会計監査と19年度総会準備 三役と監査役参集
  - 4月 1日（日）（第一日曜日）総会
  - 4月21日（土）（第三土曜日）の保全活動〔エコアップ〕、里山自然観察隊

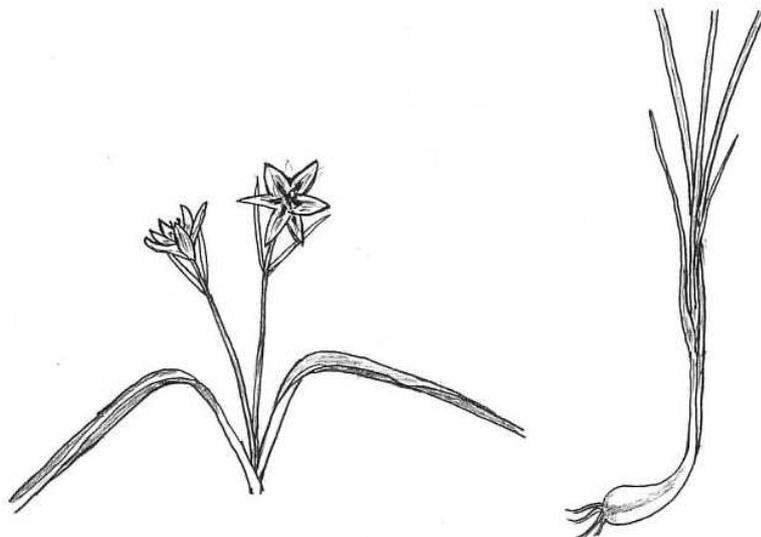
### 3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

#### アマナとノビル

今頃ちょうど食べ時になるユリ科の植物をご紹介します。

アマナは春3月、日当たりのよい草地、田畑の畔などに花を咲かせる草丈15センチほどの小さい草です。鱗茎がほのかに甘いので、甘菜という名前が付いています。チューリップと近縁種で、以前はチューリップ属に分類されていましたが、現在はアマナ属となっています。チューリップと同じように、日中日が当たっているときだけ開き、曇りや雨の日にはつぼみの形のままです。早春、まだ他の草が伸びる前に葉を展開して花を咲かせ、実を結ぶ、典型的な春植物です。このアマナの種子には、同じユリ科の春植物、カタクリと同じように、エライオソームと呼ばれるアリが好む物質が付いており、種子はアリに運ばれます。アリに運ばれた種子は、エライオソームだけが食べられ、種子は巣の近くに捨てられるので、結果的に種子が散布されるという巧妙な仕掛けです。ところで、アマナにはチューリップのように当然球根があります。ところがこの球根、毎年新しい球根は前の球根の下側にできるので、深いところにどんどんもぐっていき、掘り取ることは容易ではありません。細い茎でつながっているだけなので、切らずにそのまま取り出すのは至難の技です。昔は救荒植物として利用されたというくらい普通の植物だったのでしょうが、近年は生育地である畔斜面の草刈りが不十分だったり、除草剤を使ったりで、なかなか目にするのができなくなりました。もし見つけたら、食べたり、鉢植えにしようなどとは思わず、貴重な花を十分慈しみたいものです。

ノビルはアマナと比べると、ごくありふれた、どこにでもあるユリ科の植物です。漢字では野蒜と書きますが、蒜とは、ネギやニンニク類の総称で、あの特有なネギ臭がすることからもネギの仲間とわかります。従来の分類ではユリ科に入れられていましたが、最近の分子系統学の研究成果では、ユリ科を5系統に細分化し、その中でネギの仲間は、ネギ科として独立させようという動きがあります。その方がすっきりとわかりやすいと思います。ノビルの生えている場所は農耕地の周りなどに限られることから、大陸から農耕が伝わったところに入ってきた史前帰化植物と考えられています。ネギの仲間ですから初夏にネギ坊主を出しますが、花の代わりにムカゴができていくが多く、このムカゴから無性生殖をします。ネギ特有の匂いに含まれるアリシン(硫化アリル)という成分は、ビタミンB1と結合して、体内へのビタミンB1の吸収をよくし、代謝機能を高めます。強精、強壮作用とはこのことを言います。食べ方としては、鱗茎を生のまま、味噌をつけてかじるのがやはりシンプルで最高ですが、さっと湯がいて酢味噌和え、毎年4月の観察隊でやっている天ぷらもまた良しです。



アマナ (ユリ科)

ノビル (ユリ科)

#### 4. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今回は記載がありません

#### 5. 会員の声 (新入会員 吉崎礼子会員)

##### 「初めてのビオトープ活動」

昔から自然や生き物に対して興味はあったのですが、これまでの私のフィールドは海が中心でした。干潟に行ったり、ダイビングをすることで、自然と触れ合ってきました。そんな私が二俣瀬のビオトープ活動に参加するようになったのは、職場(宇部環境技術センター)に“研究開発室”というものができ、「ビオトープを業務としてできないだろうか」という話が持ち上がったことがきっかけでした。ビオトープを作ったこともなければ、見たことすらない私にとって、ビオトープがどういったものか全く実感がわからない状態でした。何から手をつけてよいかわからず、まずはいろいろ勉強して、体感してみようと思い、活動に参加させて頂くようになりました。

実際参加してみると、道端に生えている植物の名前1つとってみても、くぎ抜きを使い方1つとってみても、初めて知ることばかりでとても新鮮でした。また、多くの人力が集まり、1つの物を作り上げていくすばらしさを感じました。仕事のことにはさっておき、毎回楽しく活動させてもらっています。

自然破壊が進む中、「ビオトープがどういった姿であるべきか」という難しい問題に対する答えは、正直まだよくわかりません。どこまで人の手を加えるべきか、どれくらい自然を利用するのか、課題は多いと思いますが、これからの皆さんとの活動を通して、自分なりの答えを見つけていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

#### 6. 会よりの連絡事項

- 1) 広報宇部7月1日号にて当会の紹介記事の依頼あり (UNCCA より)
- 2) 4月1日は総会です。9時 二俣瀬ふれあいセンターに集合願います。  
個人会員の皆さま他団体会員(厚東川水系・・・ネットワーク、宇部市環境共生課)の代表のかた万障繰り合わせて願います。

#### 7. 編集後記

2月18日に周南市文化会館にてビオトープシンポジウムが開催され、美濃和さんが「ビオトープ～人と自然をつなぐ場所」を講演され、私が「ビオトープの維持管理などの実際の活動報告」を行って、その後でパネルディスカッション「テーマ～人と自然のつながり」が行われ、パネラーとして美濃和さんと出席しました。質問としては主に二つのテーマがあり、一つはいつも問題となる「外来種」でどう取り扱っていけば良いかということが話し合われました。パネラーのもう一人の徳永さん(鶴担当)も鶴の餌となるドジョウを放流しているが、これも外来種が話題になると言われていました。それぞれの取り組みの人たちが避けては通れない問題であると思いますが、具体的にどうあるべきかは非常に難しい問題だと思います。もう一つは「希少野生動植物(絶滅危惧種)の生息場の公表はすべきか否か」で、公表すれば捕獲・盗掘などにより折角の保護が台無しになるということでありました。保護を目的に私達が一所懸命に行っても、それを逆に利用してしまう人がいることは、非常に悲しいことでもあります。70名近い人たちが参加され、有意義な討論が出来たことは大変良かったと思いました。

(西原 一誠 記)